

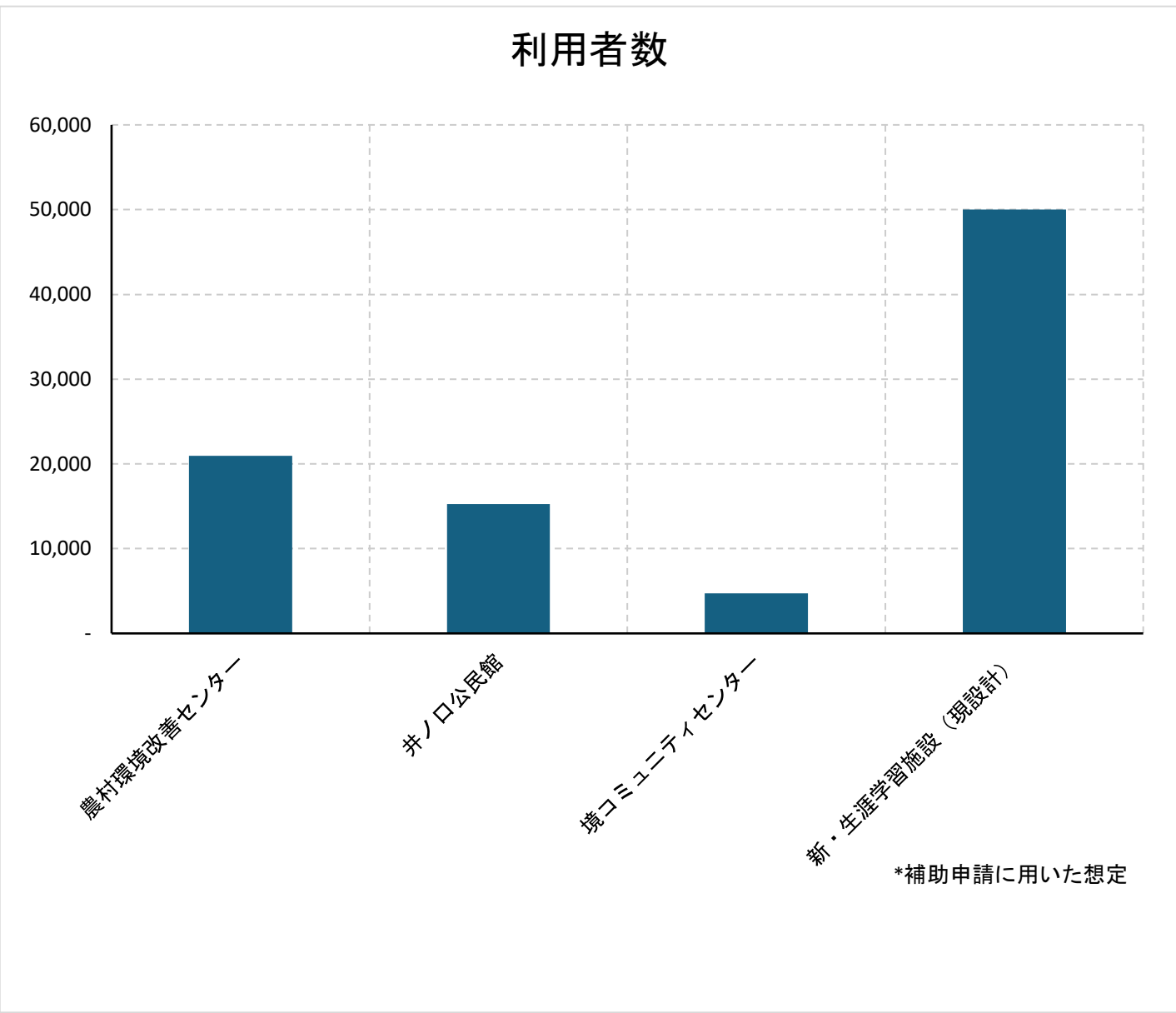
① 施設規模の再検証：既存施設・新施設の比較

「何㎡必要か」を、既存施設の面積・利用者数、現設計の機能・席数、人口減少の影響から複数の指標で検証する。

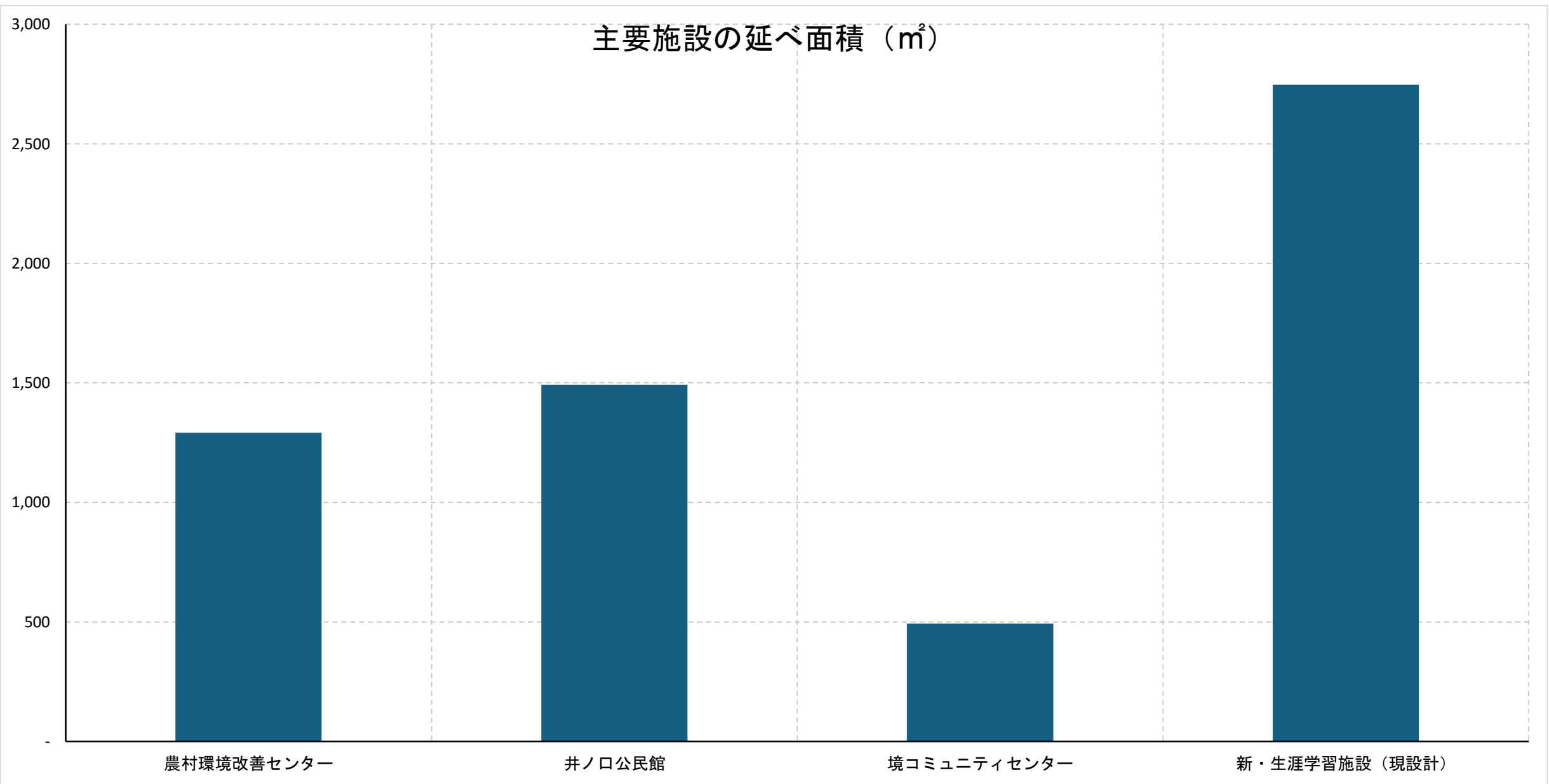
施設	延べ面積(㎡)	R6利用者(人)	利用密度(人/㎡・年)	主な機能/用途	部屋数・室数	人口(基準年)	備考	出典
農村環境改善センター	1,291	20,953	16	多目的ホール、図書室、研修室等	多目的ホール、図書室、研修室Ⅰ・Ⅱ、和室Ⅰ・Ⅱ、教育課事務室、生涯学習課事務室	8,573	築42年、老朽化・バリアフリー課題あり	既存委員会資料
井ノ口公民館	1,493	15,249	10	公民館機能・ホール等	講堂、図書室、音楽室、調理実習室、工芸室、和室、茶室、研修室Ⅰ・Ⅱ、事務室	8,573	R6利用者数	既存委員会資料
境コミュニティセンター	493	4,721	10	コミュニティ施設	生涯学習室、和室Ⅰ、Ⅱ、調理実習室、管理入室	8,573	R6利用者数	既存委員会資料
新・生涯学習施設（現設計）	2,747	50,000	18	多目的ホール、図書館機能、会議室、和室、アトリエ、展示等	主要独立諸室等 11程度（資料記載ベース）	8,573	利用者5万人は町が補助申請に用いた想定	実施設計資料・町回答
参考：既存3施設合計	5,009	40,923	8	既存文化系施設3施設の合計		8,573	利用者は単純合算、重複利用等は考慮していない	既存施設資料

*旧郷土資料館の延床面積は約260㎡です。
*既存施設の利用者数については諸室の利用者数であり、訪問のみの方はカウントしていません。
*新・生涯学習施設の利用者数は規模が大きくなることに加えて、訪問のみの方もカウントする想定で見込んだ人数です。

資料3



面積の「必要量」を見る3つの参考指標					
指標	計算式	結果	評価の読み方	注意点	出典/前提
現施設の利用密度	20,953人÷1,291㎡	16.23	改善センターの現利用密度	利用者は延べ人数	R6実績・既存資料
5万人利用を同じ密度で支える面積	50,000人÷現利用密度	3,080.70	既存施設と同じ利用効率なら約3,000㎡が参考値	利用内容が同一ではない	町想定5万人
現設計2,746.53㎡との比較	現設計－逆算面積	(334.17)	現設計が逆算面積より小さければ、より高い利用効率が必要	機能差を考慮していない	実施設計
1人当たり面積（2026実人口）	2,746.53㎡÷8,573人	0.32	人口が減るほど見かけ上の1人当たり面積は増加	人口は毎年変化	町HP 2026/9/1人口
2060目指す人口での1人当たり面積	2,746.53㎡÷5,510人	0.50	将来人口で見ると1人当たり面積は約0.50㎡	人口水準は総合計画の目標	第七次総合計画



公共施設の利用密度とは？（この資料での考え方）

公共施設の利用密度とは、
施設の広さ（面積）に対して、どれくらいの人を利用しているかを示す指標です。
利用密度が高いほど、施設に対して利用する人が多く、
「十分な面積を確保できていない（混雑している）」状態を意味します。

利用密度の計算式

$$\text{利用密度 (人/㎡)} = \frac{\text{年間の利用者数 (人)}}{\text{延床面積 (㎡)}}$$

※「1㎡あたりに年間何人が利用しているか」を表します。

利用密度のイメージ

利用密度が高い

（十分な面積を確保できていない）

延床面積 500㎡
年間利用者数 100,000人
利用密度 200人/㎡



- ✓ 1つの部屋に多くの人が集まり、混雑している
- ✓ 予約が取りにくい
- ✓ やりたい活動ができない など

利用密度が中程度

（一定の余裕はあるが、混雑する時間帯がある）

延床面積 1,500㎡
年間利用者数 60,000人
利用密度 40人/㎡



- ✓ 概ね利用できているが、時間帯によって混雑することがある
- ✓ 予約の調整が必要
- ✓ 部屋によって利用状況に差がある など

利用密度が低い

（面積に対して利用者が少なく、余裕がある）

延床面積 3,000㎡
年間利用者数 15,000人
利用密度 5人/㎡



- ✓ 部屋に余裕があり、ゆとりをもって利用できる
- ✓ 予約が取りやすい
- ✓ 新たな活動にも対応しやすい など

ポイント

利用密度が高いほど、施設に対して利用する人が多く、
「十分な面積を確保できていない（混雑している）」状態を示します。